



法人企業が利用するICTサービスに蓄積されたデータから多様な資金ニーズを検知 シームレスに金融サービスを提供するプラットフォーム

ポストCOVID-19において、国内の法人企業の倒産件数は増加傾向にあります。中でも特に中小企業の倒産に占める黒字倒産の比率は3割を超えるといわれており、大きな社会課題となっています。

また金融政策転換以降、貸出金利が上昇し法人企業における資金調達時の金利負担は増加しています。さらに政府方針による手形廃止等も控えており、多くの企業やサプライチェーンにおいて資金繰り改善や資金調達手段の見直しの必要性が一層高まることが予想されます。

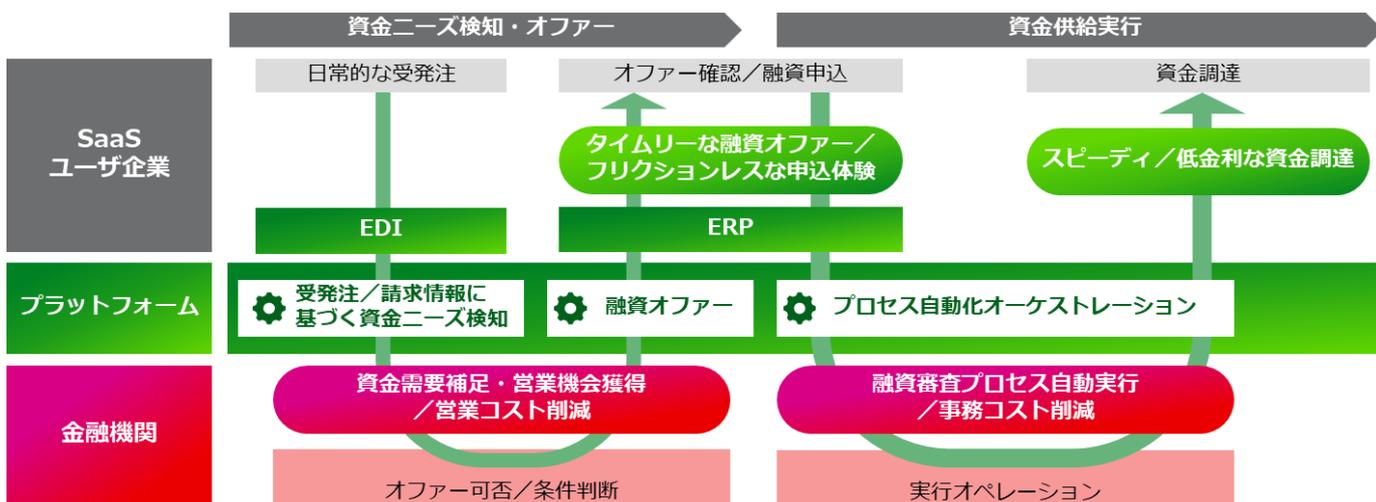
一方、社会全体では企業活動のDXが進展し、電子帳簿保存法やインボイス制度などを契機として、企業におけるSaaS利用が拡大しました。これにより企業の事業実態をデータで捉えられる環境が整いました。

金融業界においては、当局が多様な資金調達手段の提供を後押しするとともに、担保法制の見直しにより動産担保の取り扱いが容易になるなど、企業の資金需要に対して事業特性等に応じた柔軟な資金供給が可能となりました。

技術面においては、AIテクノロジーの進展により推論能力が大幅に向上し、データに基づいた企業評価が主流になっていくと予想されます。

これらの状況を踏まえ、当社では中小企業の黒字倒産や、企業における資金調達手段の見直しという社会課題の解決に向け、企業が利用するSaaSデータをもとに資金ニーズを検知し、多様な資金調達手段をシームレスに提供できる「Embedded Financeプラットフォーム」の構築に向け構想を具体化しています。

富士通EDI/ERPソリューションの顧客基盤を活用し、プラットフォームを介して業務SaaSと金融サービスをシームレスに繋げ取引先の融資UXを変革

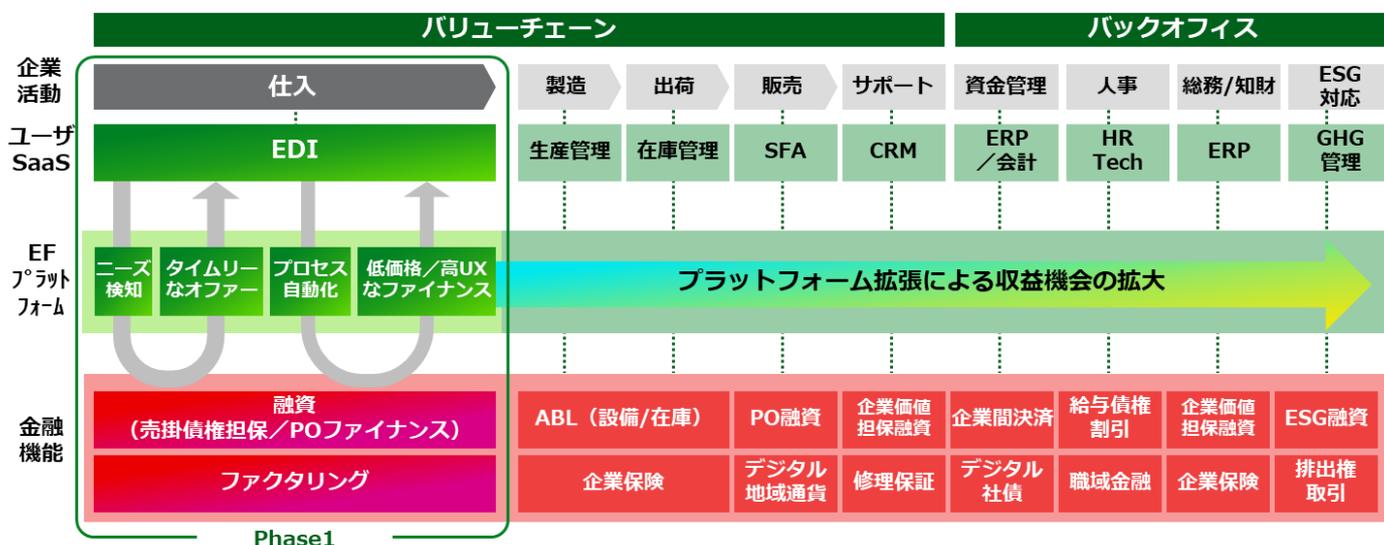




将来的にはあらゆる企業活動を支える様々なSaaSと連携し、ソーシャルグッドな金融サービスのラインナップを拡充し多様な資金調達手段の提供強化を目指します

Embedded Financeプラットフォームでは、SaaSに蓄積されたデータを活用し、データドリブンに企業のキャッシュフローの変動を予測し、資金需要を検知します。検知した情報はシームレスに金融機関へ連携され、タイムリーに金融サービスのオファーが提示されます。オファーを受けた企業は、SaaSデータを活用したフリクションレスな融資申請が可能となります。さらに本プラットフォームにより融資審査における各業務プロセスを自動化し、スピーディーな資金提供を実現することで、融資UXの変革を実現します。

これらの機能は、当社の先端技術である需要予測AI技術及びプロセスオートメーションテクノロジーを活用しています。これにより、企業間商取引に沿ったタイムリーなキャッシュフロー改善を通じて企業の資金繰りを改善し、黒字倒産といった社会課題の解決を目指します。Phase1では当社で豊富な提供実績を有する商流SaaS（EDI/ERP等）を活用した商流ファイナンス提供モデルを実現します。将来的には様々なSaaSと連携することで多様なファイナンスニーズを捉え、金融機関の収益機会の最大化を目指します。



富士通は、金融の力で人々の生活を支え、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指します。

お問い合わせ先

富士通株式会社 〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町1-5
お問い合わせフォーム

<https://contactline.jp.fujitsu.com/customform/csque02601/188450/>